



## チャイエックス・ジャパン、引き続き記録更新

2011年2月1日

チャイエックス・グローバル・インク

開業6ヵ月にして月間売買代金（2011年1月）は2,118億円に達し、12月の1,154億円から大幅増、力強い成長が継続

代替市場を運営するチャイエックス・グローバル・インク（以下「CXG」）の子会社であるチャイエックス・ジャパン（以下「CXJ」）は本日、1月の月間売買代金が2,118億円、売買高が367百万株とそれぞれ過去最高の水準に達したと発表した。CXJが提供する高速で最先端の執行市場には、現在12証券会社が取引参加者として接続している。2010年7月の開業時の取引参加者は5証券会社であった。また、開業時には5銘柄だった取扱銘柄は、現在822銘柄まで拡大している。

CXJの代表取締役であるジョセフ・マイヤーは以下のように述べている。「流動性の高い銘柄のなかには、日によっては、CXJにおける売買高が主市場売買高比7%程度まで達する銘柄も出てきており、投資家の多くが、CXJでの取引に大きな価格改善の機会を認識した結果と考える。取引参加者である証券会社、および日本への投資を拡大している海外投資家を含む取引参加者の顧客が、我々のプラットフォームを評価し、その利用を拡大しているのは喜ばしい限りである。」

また、CXJを傘下にもつCXGのCEOであるタル・コーエンは以下のようにコメントしている。

「我々のプラットフォームが提供しているスピードやキャパシティ、プライシング、そしてCXGが積み重ねた市場運営の経験を鑑みれば、2011年も我々は成長を続けることが出来ると確信している。そして、チャイエックスが参入した他の市場の例と同様、我々の進出が日本市場に新たな参加者を呼び込む効果をもたらし、これにより流動性が増大することで、最終的に全ての市場参加者の利益につながっていると認識している。」



## CXJ について

CXJ のミッションは、上場銘柄に対して、低コスト、高速、かつ流動性および透明性が高い執行市場を提供することにある。CXJ は全ての参加者に対して公正で秩序ある市場を確保するとともに、投資家のパフォーマンス向上に努めている。

CXJ の最新のマッチング・エンジンは代替市場として柔軟性と効率性をもたらし、こうした核となる技術の提供が、証券会社や最終投資家における最良執行能力の向上につながっている。

## CXG について

CXG は、マーケット・インフラストラクチャー技術により、高速で低コストの取引を通じて効率的な市場を世界の投資家に提供することを目指している。CXG は真に競争的で、技術に主導された市場は、全体の市場規模の拡大や投資家のパフォーマンスの向上につながり、市場がより魅力的となることで、あらゆるプロセスにおける全ての参加者（投資家、証券会社、取引所等）の利益に資すると考えている。CXG は野村ホールディングス株の 100%子会社で電子取引の草分けであるインスティネット・インコーポレーテッド（以下「インスティネット」）の傘下企業である。

CXG は、チャイエックス・カナダ・ATS・リミテッド、CXJ およびグループのテクノロジー部門であるチャイエックス・グローバル・テクノロジー・エル・エル・シーを運営している。チャイエックス・ヨーロッパ・リミテッドは複数の金融機関が株主であり、経営も CXG からは独立している。CXG の親会社であるインスティネットは、チャイエックス・ヨーロッパー・リミテッドの最大かつ設立当初からの株主である。